



ぬくもり

[平成26年2月15日発行]

輝く人とまち 人 つながる可児 —「参画」と「協働」による“市民中心のまちづくり”

本年も富士山のように、堂々と健やかに！

富士山は文化の象徴 (世界文化遺産)

文化とは、カルチャー(ラテン語)=[「心を耕す」]この意。人間は、ありとあらゆるものが変わる社会の中での、人として生きていく振る舞いの総体を文化と言う。その主な文化の心づくりをしたのが富士山であった。ゆえに富士山は、日本人の象徴たる由縁である。



赤富士 (朝焼け)

あれになろう、これに成ろうと焦るより、富士のように黙って、自分を動かさないものに、作りあげろ！
(作家：吉川英治著「宮本武蔵」の文中より)

(解説) あの人まねをしようと思わずに、自分には、いいものがあるのだから、自分の中から良いものを遠慮なく出して伸ばすことが大事であり、自分の悪いところだってそれにより活かされていくものだ！



紅富士 (夕焼け)



知ってる？ クイズ


- ①富士の山頂は、だれの土地？
- ②登山には男女差別があったか？
- ③富士山の名は、いつからか？
- ④富士が美しいのは？(円すい形と？)

※答えは P3 に 〈富士急行線・フジヤマ NAVI より〉



特別寄稿

人としてのスタートにあたって



可児市教育長
籠橋義朗

生まれたばかりの赤ちゃんは一人で生きていくことはできません。親をはじめとする多くの大人の手を借りて大きくなっていきます。

動物が外敵から身を守るために、生れ落ちた直後から親と同じような行動をするのとは大きく違います。

人は人として現代社会で生きていくためには、少なくとも義務教育を修了するまでの15年間を要します。その間に何を伝えていくかが子育てであり、教育であると思います。

人は生まれた直後から、親に身を守られながら生きる技術を学んでいきます。そして社会性を身に付けていきます。学校に入れば現代社会で生きる知識や経験を積み重ねていきます。

そこで大切なものはその間に親の深くて温かい愛情に育まれて成長したか、他者を思いやる心が涵養されているか、自分自身と他者のかけがえのない生命を大切にすることを心を持っているか、なのです。

親や家族はそのようなことを大切に育てて子どもを育てていかなければならないと思います。それがあってはじめて学校での知識や道徳の学びに入れるのだと思います。

人権を尊重する意識の基礎はこの時期に育まなければならないと思います。

● 特別寄稿	①	● 平成25年度人権啓発入賞「標語・300字小説」
● 「人としてのスタートにあたって」——可児市教育長 籠橋義朗		● コーナー
● 特集「本センター三大ニュース」と「26年度事業予定」	②～③	● ある日その時 ● 可児ぬくもりネットだより ● ぬくもりまゆちゃん⑭ ● 他
		④

人権文化の光彩 平成二十五年年度

・人権啓発入賞(標語)

(選考・関係者その他機関の代表による)

1,571作品
より選考

【最優秀賞】

誰だって 勇気出さなきゃ
今のまま
袁洞桃愛(小学校六年生)

【優秀賞】

ありがとう その言葉だけで
ハッピーに！
前田優姫(小学校六年生)

困ったら 家族に話そう
正直に
高橋季邦(小学校六年生)

声かけよう 勇気を持って
手をのばし
田中花歩(小学校六年生)

ありがとう 人の心に
ひびく声
薄 諒介(小学校六年生)

「ありがとう」 5文字で広がる
(無限)の輪
近藤綾音(中学校二年生)

【入選】

いじめの芽 見て見ぬふりせず 摘みとろう
金谷双葉(小学校六年生)

「がんばって」「だいじょうぶ！」仲間の声で
がんばれる 次は自分がたすける番
坂井千菜羽(小学校六年生)

人にはやさしく 自分にきびしく
親には感謝の心
安達まりあ(小学校六年生)

あなたの手 こまってる人に ぬくもりを
渡邊晴香(小学校六年生)

逃げないで 強い心で 助け合い
縄手悠人(小学校六年生)

だいじょうぶ なかまがいるよ まえをみて
荒尾涼香(小学校五年生)

なやまずに みじかなひとに はなそつよ
可児綺花(小学校五年生)

見つけたよ あの子の小さな いいところ
水上菜菜(小学校五年生)

ひっこめよう いじめの根っこ 友達と
中島伊吹(小学校六年生)

うれしいな 笑顔がふえた この学校
巨椋彩楠(小学校六年生)

だいじょうぶ きみのそばには 仲間たち
牧内 葵(小学校五年生)

言いすぎた そんなつもりじゃない
『いじめん』
野村星舞(小学校五年生)

もうやめて 悪口かげ口 いやな事
杉中海斗(小学校四年生)

思いやり ずっと心に ともしとこう
大洞里奈(小学校五年生)

ちよっかいで 気づいてなくても いじめかも
松井 駿(小学校六年生)

一言を 伝える勇気 絆の輪
渡邊和佳奈(小学校六年生)

思いやり スマイル あいさつ
ほかほかことば 仲間になれる4つのひけつ
ニシカワユミ(小学校五年生)

学校は みんなが笑顔に なる場所に
林 莉奈(小学校六年生)

あいさつは すればするほど 仲良しだ
可児拓己(小学校六年生)

その笑顔 人の心を つつみこむ
渡邊凌也(中学校三年生)

悩みごと 君の笑顔に 救われた
小林美琴(中学校三年生)

ありがとう 言い手も聞き手も 救われる
伊佐治昇悟(中学校三年生)

考えよう 相手の気持ちと その言葉
永野菜里(中学校三年生)

いじめして 解決すること なにもない
宮崎桃子(中学校一年生)



平成26年度事業予定

可児市民 「人権意識調査」の実施

(概要)

- 調査人員：1,000名(男女各500名)
- 対象：20歳以上
- 調査方法：無作為抽出法
- 実施：7月～9月頃(予定)
- 調査項目：15(いじめ、インターネットDV他、高齢者、男女、障がいのある人)等



★本調査は、平成3年以降、4年に1度実施し、活動のデータとしています。



平成25年度三大ニュース



H26
2/1

ぬくもり「演劇会」 (初の共催)

共催：可茂ロータリークラブ
会場：(市)文化創造センター(アール)
定員：300名(当方150名)

水澤心吾 一人芝居 杉原千畝物語「決断 命のピザ」



10/3

11/7

(第3～4回)

ぬくもり教室

- 土田小学校
- 東明小学校
- 児童・先生他約300名



ソウ「ゆめ花」書「勇気」をツールにして

4/26

「可児市いじめ防止 協力団体」

団体認定証(第1号)授与

富田市長より、子どものいじめ防止に取り組む事業展開をしているとの証として、授与されました。



人権啓発入賞

【300字小説】

〔選考・関係者とは機関の代表による〕

227作品
より選考

【最優秀賞】 岩崎祐奈(小学校六年生)

同じクラスのゆりちゃんは、いじめられている。私は直接いじめているわけじゃないけど、見ているだけ。ターゲットが私になるのがこわくて、どうすることもできない。みんな、一人で泣いているゆりちゃんに気付いているのに、誰も気にしなかった。そんなゆりちゃんを見ていると、私は、自分を思い出した。私も一ヶ月前までいじめられていた。友達に無視されたり、くつをかかされた。でも、一人だけ私を助けてくれた。泣く私に差し出された手のぬくもりはまだ忘れられない。

「ゆりちゃん、私と友達になるっつ。」

私の手を、ゆりちゃんがぎゅっつにぎった。

「ありがとう。助けてくれて、ありがとう。」

勇気を出せば、きっと、誰かを助けられる。

【優秀賞】

大塚愛梨(中学校三年生)

となり三人の家族が引越してきた。私と同じ年の女の子がいたが、私はあまり関わらないようにした。なぜなら彼女は中国人だったからだ。ある日のことだった。愛犬のシロが行方不明になった。一生懸命探したが、見つからない。夜になったので、その日は探索を中止した。その日の夜遅く、チャイムが鳴った。おそるおそる出てみると、シロをかかえて、トコだらけの、おとなりの女の子が立っていた。私は思わず「ありがとう。」と言った。そして「謝謝」と、小さな声で言い直した。次の日、私はお礼にお菓子あげた。すると、「アリガトウ。」と女の子は言った。私はうれしくなって、覚えてたの中国語で、「一緒に遊ぼう。」

と言った。女の子は笑った。

【優秀賞】

長尾萌美(小学校六年生)

私は今おこっている。友達と大げんかしたからだ。悪いのは、全部友達だ。私は悪くない。そう思いながら歩いていると、横断歩道でおばさんが必死にわたっていた。

私は、

(助けてあげよう)

と思った。そのあとは、まっさきにおばさんの所に行って、おばさんを支えながらわたった。わたったあとに、おばさんが

「ありがとう。助かったわ。」

と笑顔で言った。そう言われた瞬間、心の中が、ホワーとあたたかくなった。

そして、私は決心した。友達と仲直りしよう。そして、心があたたかい人になろう、と。

【入選】

玉置ひかる(中学校一年生)

ある日、友達と三人で掃除場所に向かおうとしていた。話しの会話の中で、一人の友達が

「あいつ、うざいよね。」

と言った。私もその子が好きだった。その友達の性格は少し気が強く、ひていするとすぐ怒る子だった。私はひていできずに

「うん。だよね...。」

と言った。でも二人目の友達が、

「私、その子きらいじゃないよ。」

と言った。その子の性格はなんでもはっきり言う、私がちょっとにがてなタイプだった。私

はその時だけすごいなあ。と思った。私も

「私も、その子きらいじゃないよ。大好き。」

と言った。自分のむねがすっきりした。私もこれからははっきり言おうと心にちかった。

【入選】

澤木雅士(中学校三年生)

「何気なく、さり気なく」

ある日僕は、学校を急に休むようになってしまった。その原因は、とても些細なことだった。知人に何気なくかけられた言葉が、僕にはとても大きいのしかった。しかしその知人からしたら何気ない一言だったのだから。休んでしまった日、家に友人が来た。「おっす！元気にしてるか？」といつもと変わらない挨拶。うれしかった。その後はくだらない話や学校の話で駄弁っていた。「そろそろかえるよ。」と言ったので玄関まで見送りに行った。「また明日な」「あ、ああ、また明日。」また明日。この何気ない言葉が自分にはとても嬉しかった。何でだろう。こんな、何気ない言葉でさり気ない言葉で心が暖かった。

【入選】

所 良憲(中学校三年生)

今日は、泣いた。すごく泣いた。今までのベスト3に入るくらい泣いた。これまでの僕は、一人ぼっちだと思っていた。いじめられて孤立していた。そんな僕は、冷えた黒い目で、ダイヤモンドより固い、なにも伝わらない心になっていた。だけでも、帰りに友達と会い彼は言った。「どうした、元気ねえな。話してみるよ聞いてやるから。」

目には、熱いものが、心には、やさしさのハンマーが打ちつけられた。泣きながら彼に話した。彼は静かに聞いてくれた。

僕は、彼みたいになりたいと思った。苦しい人を支えられるようなやさしい彼みたいになりたいと思った。

【入選】

宮川涼子(中学校一年生)

「私は池田詞織です。」
始業式の日に転校生が来た。とても聞き取り

にくい自己紹介だ。先生が、

「耳が少し悪いそうです。でも普通の学校に通いたくて聾学校から来たそうです。席は、あそこです。」

どうやら、俺の隣の席のようだ。マジかよ。どうやって会話するんだよお。そう思っているうちに詞織が来て

「よろしく」

手話をしながら話しかけてきた。俺も手話の真似っぽい事をしながら

「よっ...よろしく」

と返した。詞織はうなずいて、笑ってくれた。何だか嬉しくなってきた。

【特別入選】

安藤嘉久男(一般)

八十有余年前の話。私は、六歳。母は、肺病で入院。満たされない父子家庭の毎日。

ある日、留守の隣家で、可愛い犬のおもちゃをつい、ポケットに入れてしまった。

その日の夕飯時、父と姉の前で、

「今日、お宮様で、おもちゃ、拾ったよ。」

と、姉の前に差し出した。勿論、父の顔は怖くて見られない。震えが止まらない。幼い私の知恵では、次の言葉が見付からない。

すると、父は突然、優しい声で、

「おもちゃ、お宮様のどこに落ちていた？」

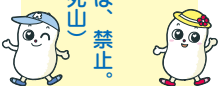
私は、父の質問に答えられない。さらに父は、

「おもちゃ、拾った時、友達はいなかった？」

私は、大声で泣きながら、父の胸にしがみついた。父の目にも涙が溢れていた。

1P「知っている??クイズ」の答え

- ①浅間神社の所有地です。
- ②明治5年に「女性登山解除」それまでは、禁止。
- ③鎌倉時代からよばれた。(以前は、不死山)
- ④川が無いこと。



複写禁止

自衛防の守り

あなたは、眠れていますか？

「自殺防止に尽力している人たちの声」

生き生きとした、息苦しい社会を、生き心地の良い社会へ！
人権を断つ切なく悲しいことを直視しよう！

(1)あらまし

●平成25年度の自殺者(二七、一九五人)

(2)国の方針

●平成18年10月(自殺対策基本法)が施行

(個人ではなく社会問題として総合対策化)
(誰でも自殺に追い込まれない社会実現)

(3)尽力している民間人(清水康之氏)

(現NPO法人「ライオンリンク」代表)

●NHKで番組制作時、自死遺児の人々と出会い、自殺対策運動に取組み活躍

●初の「自殺対策白書(二〇〇八)」を政府に提出

●実効性の高い報告として注目された。①自殺の地域特性の解明②自殺の危機経路の解明(実態分析)③七割以上が自殺前に「医療相談者」

(4)清水氏発言(要旨)(P1)ライオンリンクより

●これまでの社会は「死を直視」せず「死から学ぶ」こともできず、必要対策の理解不足であったため、同じ苦しみの人を見過して、自殺へと追い込まれていく現実があった。

●自殺の本質は、社会の縮図であります。自殺というフィルターを通して社会のあり方を見つめていく「死から学ぶ」という謙虚な姿勢を、社会が、私たちがまず持つべきです。

●「生き生きとした」社会全体で行うべきです。

(5)主張 差別をいじめは、切らさず、なごらねよう。

●人に、少なからずつらいことがあるものです。これに耐えることは、相当心根の強さを要します。人は性格も対応力にも差があります。

●孤独にならないよう支えあい、地域の皆さんが寄り添うことが大切です。

●生き生きとした社会が、苦悩がありましたら、左記へご相談下さい。

NPO 岐阜のちの電話 無料相談 中(休)19:00~22:00
0585-277-4343 会19:00~24時連続

3/5(水)自殺予防対策講演会 講師 早稲田 夏氏 精神科医
会場:市(アール)小劇場(18:30~20:00) 自由参加
主催:市(福祉課)



まゆちゃん14

〈なぜ年をとるの?〉

作:多々/画:miho



(本作品は、全て本職員でつくられています)

可児ぬくもりネット だより

(今週のビタミンから)

(本センターホームページ)

多様なことは、良いこと!

最近、「多元性・多面性・多様性」を多く見かけます。これらは、人が人との拘り、そして社会との拘りの中で、大切にすべきことです。

「多元性」は、その人の持つ多くの根本や要素(複数のアイデンティティ)であり、多いほど、他人からの評価の物差しとなりましょう。「多面性」は、自らが持つている多くを活用するように働きかけをする意味合いを持つと言われます。

人の性格、考えは、千差万別です。「多様性」は、人では「10人10色」です。幅広い性質の異なるものが存在することです。このことは、逆さまから見れば、個々の思いの個性豊かな人の集まりとなります。ここで大事なことは、こうした多いというこの意味合いを互いに理解し合っている分野で、高みの向き方向に手練させることでもあります。

間違っても人権差別や偏見の道具にしてはならないのです。

差別や「いじめ」の犯罪心理は、
★自分の静けさを脅かすのではない。
★自分と似ていなければ安心できず怖いと考える。

★自分の知らないことは、何が起ころるか

分らないので、暗闇のように怖がる
と言っています。

「タハール・ベン・ジェルーン」善人種差別より
こつた自分とは違うから排除するといふ、排他的心理にならない環境を小さい時に普段から家庭・学校・地域で作ることが大切であります。人の良いところを学ぶ、大切さの心を育てることです。そうすれば、差別やいじめの心を胸深くに閉じ込められると思います。

よりプラス思考での多様性を希求してこそ、これらの「個性の尊重が活力の源となり、向上・繁栄の原動力となる」のではないのでしょうか。「意見は、違っても話し合いの中にある」ことが大切であり、この包容力の中に新しい発想が生まれます。多くの意見は、多くの価値を生む素材があるのです。

その上で、「人の幸せ・喜びをどうしたら与えられるか、また幸せにしてみせる」というポジティブな思いの中にいられることにもなるからです。

多いというのは、変化の対応力を持つことであり、よいことでもあります。
「人としての多くの人種、多くの思いは多くの文化を育み、豊かな社会の繁栄をもたらすものだ」と言われます。

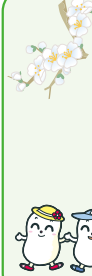
迎春のかがやき

本センター会長 杉山 桂

新春を健やかに迎えることと思えます。

午年にふさわしく、本年も快い風の中を走り、皆さまと「共和の活動」を推進してまいります。

皆さまのご支援ご協力をお願いいたします。



編集後記(啓業のひかり)

もうすぐ春です。田んぼの「あせ路」にも冬寒の「露のつらさ」が春を待っていました。すべし梅が、桃が、そして桜が咲く季節になります。

「冬来りなほ、春遠からし」(詩人:シエリー)です。どんなに、厳しい気候と言っても四季は必ずやってくる。人も希望をなせば、いろいろな花を、必ず咲かせられるものです。

植物たちは、芽を出し花を咲くことをじやませずに認め合っているのです。

人間は、これができるので「差別やいじめ」をしまっています。そうして、不幸をつくり出します。狭い心・やきもち・はりの「上」等の感情が自らも壊すのです。本来、「人間として自分らしく幸せな花を咲かせる権利があること」が人権なのです。

「広く、強く、優しく心」で本年もセンター一同力を合わせて皆さまと共にがんばってまいります。

(編集者:川手靖猛)